

Weekly Michael's News



←※イスラエルで使用されていたローマ帝国の銀貨。成人男性の一日分の労働賃金に相当する。

<今週の聖句>

2017年10月23日発行 No.51

『イエスは彼らの悪意に気づいて言われた。「偽善者たち、なぜ、わたしを試そうとするのか。税金に納めるお金を見せなさい。」彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは、「これは、だれの肖像と銘か」と言われた。彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。』」

(新約聖書 マタイによる福音書 22:18~21)

<四条畷学園高校の2年生がKIUを見学!! チャペル初体験の皆さんの輝く目に映るものは…?>

10月も後半を迎えています。この時期は高校において進路を考える大切なシーズンでもあります。先日も、大阪の四条畷学園高等学校2年生の皆さんが、オープンキャンパスでKIUを訪れてくれました。公開授業やランチを体験した後にチャペルも訪問!! (できれば今度は一緒に礼拝をしたい!!) 静けさが守られた空間と大きなパイプオルガンに驚きを隠せないようでした。少子化という課題を抱えるこの日本において、小規模の私立大学が学生をきちんと確保していくには、このような丁寧な対応が必要不可欠となります。いつも尽力されている入試広報の方々やボランティアの学生さんには本当に感謝です!! この小さな出会いが数年後の再会に繋がる事を心から願っています!!



ボランティアの学生のリードで入場



集中して話を聴く高校生の皆さん



人生を豊かにする「本物」を説明

<KIUに「命の樹」があるのをご存知ですか!? キャンパスの最南端で一本のオリーブが輝く!!>

いつもキャンパス内をきれいに整備されている施設の松本さんより、面白いお知らせがセンターに届けられました。KIUの南西端にあるオリーブの樹がたくさん実をつけているとの事!! 驚いて見に行くと、そこには燦然と輝く一本のオリーブの樹が!! オリーブは、その生命力の強さから古代より命の恵みを表す樹として知られており、ここから取れる油は、聖書の中にも様々な場面で登場します。食用とするには一工夫必要ですが、このような命のエネルギーが満ちるKIU、嬉しいですね!!



施設の松本さんが意外な事実を報告



燦然と輝くオリーブの実



台風にも負けずに実を付けています

<先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

10月16日(月) テーマ:「20年ぶりの再会を通して」 野間 光顕(チャプレン)

9月下旬に行われた前任校の創立記念式典に出席した際、私が教師として初めて家庭訪問を行ったA君と偶然再会した。下級生とのトラブルから自宅謹慎になったA君と話す為に、遠く離れた自宅を訪問し、共に食事をし、そして宿泊までさせてもらう中で、一人ひとりの生徒を送り出して下さっている保護者の視点、表面的には見えないけれど、その背後で必死になって働き、支え、そして祈っておられる存在に気付かされた。私達も様々な繋がりの中で生かされている。10月も後半を迎えた。全ての命が豊かに輝くこの季節、私達を愛し育て下さる神との繋がりを覚えながら共に歩みたい。

10月17日(火) テーマ:「ガン患者になって思ったこと」 中村 智彦(経済学部)

肺にガンができ、2箇所に移転している。3ヶ月に1回検査に病院へ行くが、医者からは「まだ小さいので大きくなったら手術しましょう」と言われた。医療技術の進歩により、検査で数ミリのガンが発見されるようになった。今はガンであっても普通に生活できるし、働きながら治すことも出来る。がん患者になって分かった事が多くある。若い世代でガン罹患者が相当いる。ガス会社に勤める30代の友人は特殊なガンになった。治療方法はないが、普段通りに過ごす事が一番ほっとするそうだ。健康診断を受け早期発見が必要だ。放っておくと取り返しのつかない事になる。治療しない、健康補助食品で良いというのは単なるおまじないと同じ。やはり医者に行き治療してもらいたいと思う。

10月18日(水) テーマ:「盛る盛らない・写真が伝えること」 藤倉 哲哉(経済学部)

先日、ゼミでパンフレットやHPの写真撮影があった。私も幼少の頃から写真が好きで、今も事ある毎に撮影を嗜んでいる。SNS等を見ていると、社会的にも写真撮影が人気を博している事が分かる。「皆に観て欲しい」「いいねが欲しい」という欲求が昂じて周りに迷惑をかけたり、場合によっては犯罪に発展してしまうケースもあるようなので注意が必要だが、一方、写真を撮り続けて来て思うのが、写真は常にありのままを写したものではないという事だ。シャッターを押す時には、そこに撮影者が作品を通して伝えようとする目的や意図(=メッセージ)が必ず存在する。角度や目の高さを変えるだけでその一枚は全く別物になる。それらを読み取る事で一枚の持つ世界が大きく広がるのだ。

10月19日(木) テーマ:「パンセについて」 上杉 雅之(リハビリテーション学部)

「パンセ」はパスカルの記した著名な哲学書である(「人間は考える葦である」が有名)。彼は哲学以外にも自然科学&物理学にも精通しており、思想家、数学者、神学者でもあった。早熟の天才であった彼の功績は様々な理論や原理・定理に残されているが、彼自身は短命でありわずか30代で逝去している。そんな彼が残した2つの言葉が私は好きだ。一つ目は「神無き人間の惨めさ」というもの。二つ目は「神の目から見れば私の発見など海岸で綺麗な石を見つけて喜ぶ子供のようなものだ」。どちらも言葉の中に謙虚さが滲み出ているように感じる。英語で「才能」は「gift」とも訳されるが、与えられた力(神からの贈り物)を前にして、パスカルのように謙虚に生きて行きたいと願う。

10月20日(金) テーマ:「選挙とキリスト教」 野間 光顕(チャプレン)

明後日に衆議院選挙が行われる事を受けて、TVのニュースや新聞も盛んにその話題を報じている。一方、学生の皆さんはあまり関心が無い…という人がいるかもしれない。今日の聖書箇所であるコリントI12章(「体は多くの部分から成り…」)は、弟子パウロが示した「共同体論」と呼ばれる。キリスト教は一人ひとりの命が神によって創られたとする考えを基本にしながら、長い歴史の中でも「それぞれが持つ違い(=個性)」を大切にしながら、お互いの命を大切にしながら歩みを進めてきた。様々な変革の風が吹き荒れる社会ではあるが、共に手を取り合って、共に支え合って歩む…。そんな世界を、社会を実現するために、ぜひこの週末は投票に足を運んで欲しい。(文責:野間 光顕)